

心を磨く（二）

導師 現楠

七月号の「日進月歩」にて、

——現代は、精神的豊かさよりも、物質的豊かさが重視されているように、
思われてならない。

値いがたいご法にお出値いできた私たちは、信行精進することにより、心を磨いている。その喜びを、子や孫、延いては世の中の大勢の人々と分かち合い、穏やかに精神的に満たされ、潤った心を育みたい。——

と、お伝えしました。

八月八日から十日に「しく少年団サマーキャンプ」が開催され、小学生と保護者の皆さまが、心に残る充実した日々を過ごすことができました。

ご修行会では、

「かほかたち つくらふものは おほけれど

心をみがく 人はすくなし」

と、お教歌のお稽古を行い、皆と一緒に拝読しました。

—— 私たちは、顔や形など、見た目を気にすることが多いと思います。

もちろん見た目を整えることも大事ですが、それ以上に、優しい気持ちや感謝の気持ちを持つことがとても大切。

人のためになることができるように、心をきれいに磨きましょう。——

このお教歌の解説を、子どもたちは素直に受け止めているようでした。

今後とも「利他の心」を養ってほしいと願うばかりです。



以前、雨上がりの歩道を歩いていた時のことです。

道端に設置してある、ずぶ濡れになった子どものブロンズ像を、同い年く

らいの女の子が、ハンカチで一生懸命、拭いていたのです。

真剣で優しい表情は、まるで、

「濡れてしまつてかわいそう。拭いてあげるからね！」

と言っているかのようでした。

傍^{そば}には、優しい笑顔でニコニコと、我が子を見守る母親の姿がありました。この光景に、母娘^{おやこ}の心の美しさを強く感じました。



別の日、施設に入所しているご信者さまのところへ伺つた時のことです。

一匹の雑種の老犬が玄関脇に、紐^{ひも}でつながれていました。

足腰が弱り、両目が見えない様子でしたが、私の気配^{けはい}を感じると、嬉しそうに尾っぽを振り近づいてきたのです。しかし、頭をなでようとしたところ、急に表情が変わり、尾っぽをたらし、お尻を向け、離れていってしまいました。不思議に思つて、ご信者さまにお尋ねすると、

「あのワンちゃんは捨て犬なのです。」

朝早く、施設の玄関に、紐でつながれていたのです。

迷い犬のポスターを貼りましたが、飼い主は未だ現れません。

目が見えなくなり、足腰も不自由になつたので、捨てられてしまったので

しよう。

目が見えなくても、人の気配や、車が近づく音がすると、飼い主が迎えに来てくれたと思うのか、尾っぽを振って喜びます。

違うと分かると、がっかりして落ち込むのです。

その姿を見るたびに、悲しくなります。

以前、私も犬を飼っていましたが、家族同然でした。

あのワンちゃんの飼い主の心がわかりません」

とのことでした。

濡れた銅像を一心に磨く女の子。

その姿を傍らで見守る、優しさに満ちたお母さん。

一方、邪魔になったと捨ててしまった、犬の飼い主。

いかに心が大切か、ということを改めて感じさせられたお話です。

お互いさま、お教歌のごとく、顔、形を繕うことよりも、まず心を磨きましよう。そして穏やかで精神的に満たされ、潤った心を育んでいこうではありませんか。